

Asia Pickleball Junior Open 2025に出場



今月のFujimist

近藤 晃正^{こうせい}さん(ピックルボール)

〒049-256-9535 シティプロモーション課

左利きの一打が未来を切り拓く

昨年、ピックルボール日本代表としてベトナムで開催された「Asia Pickleball Junior Open 2025」に出場し、アンダー14・スキルオープンレベルのダブルスで、見事ベスト16に輝いたのは勝瀬中学校2年生の近藤晃正さんだ。

ピックルボールとは、バドミントンと同じ広さのコートでパドルという大きめのラケットを使い、穴の開いたプラスチックボールを打ち合うスポーツで、近年日本国内でも注目を集めている。近藤さんは、東京都内で開催されたイベントで初めてピックルボールに出会い、小学5年生で本格的に競技を始め、今では日本代表としてアジア大会に出場するまでに成長した。最大の武器は、左利きならではのフォアハンド。相手のバック側へ逃げていく逆クロスは、自信を持って放つ得意の一打だ。一方で「バック側に来たボールを単調に打ち続けたことで相手に読まれ、逆に攻め込まれた経験は、自身のプレーを見直すきっかけとなりました」と語り、悔しさをにじませる。試合で勝った瞬間の喜びは格別だが、周囲からの期

待が大きくなる中で、プレッシャーとどう向き合うかも大切なテーマだ。「負い過ぎないことを意識しています」と語り、自分のペースを守りながら競技に向き合っている。

「もっと強くなりたい」その一心で

アジア大会出場が決まったときは、まだ選考段階だと思っていたので驚いたそう。世界の同年代選手たちの高いレベルに触れ「もっと強くなりたいという思いがより一層強くなりました」と語り、技術だけではなく精神面でも大きな成長を遂げた。一方、海外で感じた言葉の壁は新たな課題でもある。「英語を学び、世界の舞台で活躍したいという目標も芽生えました」と将来を見据える。競技を通じて得たものは大きく、海外遠征やトップ選手との対戦経験に加え、一緒に強くなりたいと思える仲間ができたことは財産だ。支えてくれる家族や応援してくれる人たちへの感謝の気持ちを胸に「将来の夢はピックルボールのプロ選手になることです」と語ります。その歩みはまだ始まったばかり。大切な仲間とともに切磋琢磨しながら、これからも世界へと挑戦を続けていくことだろう。

■市公式ホームページ



■ SNS



LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴



Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。



みんな笑顔☆ふじみ ☎ 049-251-2711(代)

FAX 049-254-2000
〒354-8511
富士見市

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

